

応用プログラムで学んだこと

弘田 克彦
(徳島大学 歯学部)

応用プログラムで学んだことをスケジュールを振り返りながら考えてみました。応用プログラム初日の朝、常三島キャンパスに集合し、バスで淡路島に向かいました。車中で各自簡単な自己紹介があり、初めてお会いする先生がほとんどでしたが和やかな雰囲気既にできあがっていました。

研修会場に到着するとすぐに記念撮影とグループ分けが行われ、レクチャーやゲームを楽しみながらプログラムが進んでいきました。私は総合科学部の関澤 純先生、山本真由美先生、石田和之先生、医学部の松崎利也先生とグループとなりました。

スケジュールにしたがい淡々と予定が進行し、最後にプログラム担当の先生から、明朝模擬授業をするので、6 テーマのなかから各グループで授業テーマを決め発表者を選ぶようにと言われました。我々のグループではあみだくじで松崎先生が発表者と決まりました。その時グループで選びました授業科目名は死生学であり、授業テーマは高齢化と死となりました。松崎先生は授業の目的、授業の到達目標、授業の概要、授業計画を夜の12時を超えてまで熱心につくられていましたし、またそれを書記役の山本先生が驚くほど要領よくまとめられていきました。私は、授業の下準備をする先生方の様子になかなか感銘を受けると共に、自分に無いものを感じました。そばで直にみさせていただいたこの経験は言葉ではうまく言い表せないですが、後の自分の授業態度に生かしたいと思いました。

夜は6人部屋で寝ましたが、ここでも総合科学部のユニークな先生方がいて、今となってはハッキリとは覚えていませんが、普通聞けないような面白い話を聞かせていただきました。

朝は多くの小学生の集団に混じり施設の旗の掲揚後、朝食もそこそこに模擬授業に参加しました。16回授業の中の5回目の死生観の変遷を想定して松崎先生が授業されたのですが、そこにおられた先生方のほとんどが驚嘆したと思いますが、まるでいつも講義されている熟練教官のように自信にあふれた講義をはじめられました。またその時の学生役として意見を求められた羽地先生の松崎先生に対する返答もユニークなもので思わず笑ってしまいました。また別の授業であられた誉田先生の質問内容にも新鮮みがあふれていました。

多くの先生が異なったテーマで講義されましたが、どの先生からも隠れたさりげない意気込みが伝わってきました。またお茶の水先生そっくりの先生の模擬授業も大変興味深く拝聴しました。以前、中学生の息子から徳島大学のお茶の水先生が中学に特別授業にこられて、その時のお話があっても面白かったよと聞いていたのを思いだして、思わず苦笑してしまいました。どの先生も初めて手にする課題を短時間のうちに、いつも講義されているかのように自分のものにされているのには驚かされました。頭と体で良い授業とは何かがおぼろげながらわかってきたような気がしました。さらに一方では、総合科学部の先生が別の模擬授業で言われていた「たとえ先生にとってはあたりまえの言葉でも、初めて聞く者にとっては、その言葉は全く聞こえないんですよ」という痛烈な言葉が今でも耳に残っています。確かに私が言っている言葉の多くもヒトには全く聞こえていないのだろうと我が身を振り返りました。

応用プログラムで学んだことが試される授業のビデオ撮影は、平成15年9月8日の8時45分から10時15分に森先生に撮影していただきま

した。板書とレジメを中心に授業中に学生が理解できる程度の内容を講義し、板書のかわりにメディアのみを使うことは避ける、これをモットーとしました。

授業は時間どおりに開始して、最初に目的、到達目標を説明しましたが、これは私の過去の講義では無かったことで、応用プログラムで学んだことの一つの大きな収穫だと思います。導入(0分~10分)では、身近な最新のデータを講義に取り入れ、学生の興味が増す努力をしてみました。「結局何が言いたいのかよくわからない」「もっとゆっくり話して欲しい」などの意見が過去にあったため、図を用意し、教える側と教えられる側とが一体化出来るような工夫もして授業を進めました。重要な点は繰り返すか、言い方をかえて説明しました(10分-60分)。最後に授業全体の内容を総括した後に、授業の要点が理解できているかが私にわかるような設問プリントを配布し答えてもらいました(60分-90分)。後日設問内容に対するに学生の解答と、回収しました講義に対する学生の感想を読みましたが、多くの学生が授業の要点を把握していると共に、以前の私の講義に比べて理解しやすくなったとの総評でした。

授業研究会は12月16日に、私と、雄西智恵美先生「高齢者援助論」、野間隆文先生「生化学」、司会：森田秀芳先生で行われました。歯学部だけでなく医学部の先生も参加されていましたが、自分の講義をみていただくのは、私にはつらいものがありました。ただ森田先生や野間先生の優しい御批評でなんとか救われた気分でした。また雄西先生と野間先生の講義内容をみさせていただいた後に、意見を求められましたが、自分ができない反省をもこめてあえて失礼をもちえりみず意見を述べさせていただきました。また日頃接している学生にこんな潜在能力があったのかと驚かされる場面が野間先生の授業中にみられました。

まだまだ私の授業の仕方には改善の余地が多く残されていますし、この年になりますとそんなに容易くは変わらないことを自覚しています。けれども多くの先生方が私たちのために多大の時間と労力をついやしていただいたご苦勞を考えると、応用プログラム全課程で学んだことを、おりにふれ思ひだし、分かりやすく、暖かさがあり、同時に厳格な、双方向性のある授業をこれから目指そうと思っております。